

研究スタッフ紹介



遠藤 香織

東京都医学総合研究所
研究員

2012年9月、世田谷・三鷹・調布にお住まいの4,478組の親子参加者から始まった東京ティーンコホート調査も、おかげさまで10歳時、12歳時に続いて、この2017年3月に14歳時調査が始まりました。さらには、東京大学での脳画像撮像や、東京都医学総合研究所での来所型調査も進めることができいております。これらランダムにお願いを差し上げ皆さまにご協力頂いている新たな試みは新聞やテレビにも取り上げられ、学会や論文での研究成果発表も進んでおります(詳細はウェブサイトからご覧いただけます。「東京ティーンコホート」と検索してみてください)。

この数年間に、お引越されたご家庭も多く、コホートキッズの皆さんは今や日本全国、世界各国に羽ばたいていらっしゃいます。私はそういったご転居世帯担当の調査員として各地のご家庭を訪問させていただいています。直接お会いできました皆さま、ご協力ありがとうございました。これからお会いする皆さま、どうぞよろしくお願いたします。

訪問させていただきました際によく頂くご質問として、「調査はいつ頃まで続くのですか?」があります。目標は、おおよそ2年ごとに30歳頃まで(少なくとも!)を考えております。14歳の時点で30歳を思うととても遠いように感じられるかもしれませんが、自身を振り返っても、ギター部に入ってバンド活動ばかりしていたティーンから、研究所の研究員として全国を飛び回るアラサーになるとは……感慨深いものがあります。ぜひ養育者の皆さまとお子様ご本人の思春期・未来予想図をお話しながら、人生の旅路をご一緒させていただけますと幸いです。

★ご住所が変更になるご家庭、ご住所が変更されたご家庭へのお願いです。

もうすぐ引越し!
だいたい準備も終わったし、新しい生活が楽しみだわ!
ちょっと遠い場所だけど...

2 通りの方法がありますので、ご連絡ください

1 電話で連絡する
こんど引越しますが...

2 ハガキを郵送する
専用ハガキ
そういえば、ニュースレターと一緒にハガキが入っていたわね...

ご協力いただける方へは
遠方のご自宅まで研究スタッフが伺います!

ひきつづきご協力をお願いいたします

TOKYO TEEN COHORT PROJECT

調査
お問い合わせ先

一般社団法人輿論科学協会「青春期の健康・発達コホート研究」事務局
〒151-8509 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-8-6
Tel 0120-551-327 (AM10:00~PM6:00) 担当: 島田・井田

研究実施
機関

東京大学
公益財団法人東京都医学総合研究所
国立大学法人総合研究大学院大学

協力
自治体
窓口

世田谷保健所健康推進課
調布市教育委員会教育部指導室
三鷹市子ども政策部児童青少年課



思春期のお子さんとの健康と発達の過程をアンケート調査などにより、科学的に検討するプロジェクトです。

東京ティーンコホートの詳しい情報はホームページでもご覧いただけます

<http://ttcp.umin.jp>

- ◆ 第1号~第9号ニュースレターを掲載しています。
- ◆ 現在の調査協力者数や東京ティーンコホートを紹介する動画も掲載しています。

デザインを
リニューアル
しました

東京ティーンコホート ニュースレター
第10号(2017年11月発行)
発行:公益財団法人東京都医学総合研究所

Contents

- 巻頭
応援メッセージ: 木村 太郎
- 特集
| 見つめ合いが作るヒトと犬の絆
- コホートキッズ
| どんな動物と暮らしている?

研究者紹介

- 遠藤 香織
- 巻末
| 今後も引き続きご協力お願いします

TOKYO TEEN COHORT NEWS LETTER

東京ティーンコホート
ニュースレター

Vol.10

2017. NOV



2012年9月に歩み始めた東京ティーンコホートも、この9月で5年が経ちました。

これまでご協力いただいた4,478世帯の方々に、スタッフ一同、心より感謝申し上げます! 現在、14歳時調査も順調に進んでおります。引き続き、どうぞ宜しくお願いいたします。思春期を生きる皆さんが、未来に向かって懸命に前進するように、私たちも精一杯歩み続けていきたいと思っております。皆さんへの応援の気持ちを込めたニュースレター、今回はペットについてもご紹介いたします。ウェブサイトに掲載のバックナンバーと合わせて、ご家族の皆様で楽しくお読みいただければと思います。

応援 メッセージ



ジャーナリスト
木村 太郎

1938年2月12日生まれ。アメリカ合衆国カリフォルニア州バークレイ生まれ。昭和16年に日米関係悪化とともに帰国する。慶応義塾大学法学部卒業。昭和39年にNHKに入社。記者として神戸放送局、報道局社会部に勤務する。昭和49年~51年ベイルート特派員、内戦に巻き込まれ戦争の取材に終始したあと、51年~53年ジュネーブ特派員、55年からフシントン特派員としてレーガン政権の誕生を目撃。57年に帰国し、「ニュースセンター9時」の4代目キャスターに就任。以後6年間キャスター席に座る。昭和61年に「第12回放送文化基金賞」、63年に国際報道を通じ、国際理解に貢献したジャーナリストに与えられる「1987年ボーン上田記念国際記者賞」を受賞する。「ニュースセンター9時」の終了とともに63年にNHKを退社し、木村太郎事務所を開設。フリーランス記者として新しいスタートを切る。以降、FNN「ニュースCOM」でキャスター、FNN「ニュースJAPAN」、FNN「スーパーニュース」でニュース・アナリストを務める。現在はFNN「Mr.サンデー」に隔週出演中。東京新聞にコラム「太郎の国際通信」を毎週連載中。

私を助けてくれたのは、実力試験という「試練の場」

私 私の思春期には他人に誇れるような話はありません。

無難に過ごせばそのまま大学へ進学できる一貫校に入っていたのに、無駄な抵抗をして学校をサボる悪さはするはで高校一年の時に退学になってしまいました。すると、当時名古屋に居た父親は、私を呼び寄せてこともあるに地元の最も厳しい進学校に転入させたのです。

その高校は定期的に大学入試全科目の実力試験を行い、その成績を順位をつけて公表していたのです。転入直後に行われた試験で、当然のことながら私は一学年四〇〇人の三九八番でした。偉かったのは母親で「まだ下に二人いるじゃないの」と笑って言ってくれたのです。

情けなかったのですが、客観的な評価では誰の責任にもできません。そこで少し努力してみると下に二〇人ぐらいを従えることができるようになりました。そうすると順位が上がるのが面白くなるもので、好きになれそうな科目から参考書に目を通すようになると成績の順

位が「どンドン」とではなくとも「そこそこ」に上がるようになり、卒業する頃は一〇〇番を切るぐらいまでになりました。退学させられた一貫校の大学を受験して、なんとか滑り込むことができたのです。

こうなると怖いものはなくなります。大学時代は二度海外へ「遊学」して卒業するのが三年遅れてしまいましたが、それで得たものは後年ジャーナリストとしてやってゆく上で大きな宝物になりました。

「私を採らなければ損をしますよ」と入社試験の面接で胸を張ったのは、ちょっとやりすぎだったかもしれませんが、いずれにせよ、私を助けてくれたのは実力試験という「試練の場」だったと思います。私の場合、思春期の問題は逃げずに立ち向かうことで克服できたよう

過去の応援メッセージは
ホームページ上でご覧いただけます

東京ティーンコホート



ヒトと犬の共同生活は、1万5千年～3万年前に始まったとされています。長いあいだ共に暮らすなかで、ヒトと犬はどのようにして絆を深めてきたのでしょうか。最近の研究で、“見つめ合い”という行動が生み出す“オキシトシン”というホルモンの影響があることが分かりました。

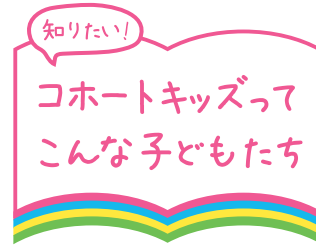
一般的に動物たちの間では、相手を“じっと見る”ことは威嚇(いかく)することにつながります。一方で私たちヒトは、“見つめ合う”ことによって分かり合ったり、親しくなったりすることができます。例えば、ヒトのお母さんと赤ちゃんは、見つめ合うことで絆を作ります。お母さんとの見つめ合いや触れ合いが多いほど、赤ちゃんの身体のなかでオキシトシンが増え、お母さんへの愛着がわきます。すると、お母さんの身体のなかでもオキシトシンが増え、赤ちゃんとの見つめ合いや触れ合いが多くなります。この連鎖(れんさ)をポジティブ・ループと呼びます。

麻布大学の研究チームが一般家庭の犬と飼い主30組を対象に行った実験で、このポジティブ・ループが、ヒトと犬の絆を作ることが分かりました。実験では、犬とその飼い主に30分間の交流を行ってもらいました。また交流の前後には、尿のなかのオキシトシンのレベルを測りました。

まず分かったのは、よく見つめる犬と、あまり見つめない犬の2つのグループに分かれるということ。次に、よく見つめる犬とその飼い主のみ、交流後のオキシトシンのレベルが上がっていることも分かりました。あまり見つめない犬とその飼い主の間では、オキシトシンのレベルに変化はありませんでした。また、同じ実験を、仲の良いオオカミと飼い主でも行った結果、犬と飼い主の交流と比べ違いはなかったものの、オオカミはほとんど飼い主の顔を見ず、交流の前と後ではオキシトシンのレベルに違いは見られませんでした。ヒトとの絆を形成するポジティブ・ループが犬では見られ、オオカミでは見られなかったことから、“見つめ合う”ことで分かり合い、絆を作るという能力は、共に生活するなかで、ヒトと犬の間に生まれた特別なものだと考えることができます。私たちヒトと犬は、見つめ合うことによって心を通わせることを学び、別の種類の生き物と共存するという素晴らしい能力を手に入れたようです。



Nagasawa et al., (2015) Science, Vol.348, Issue 6232, Pp.333-336



コホートキッズはどんな動物と暮らしている？

東京ティーンコホートのお子さんたちは、どんな動物と暮らしているのでしょうか？ 4,478世帯の方々からお預かりしたデータをもとに調べてみました。

ペットを飼っていますか？

● はい

... 60.70%

● いいえ

... 39.30%

どんなペットを飼っていますか？

(重複回答あり)

● 魚類



... 40.6%

● 犬



... 26.3%

● ネコ



... 12.4%

● 小動物



... 11.1%

● 爬虫類



... 10.9%

● 鳥類



... 5.5%

● 両生類

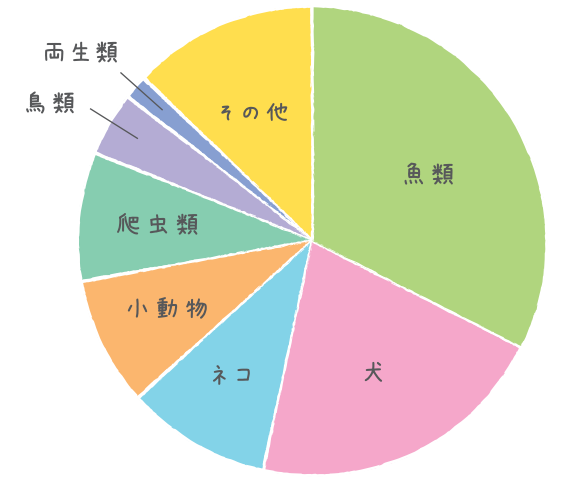


... 2.1%

● その他



... 15.9%



コホートキッズは様々な動物と暮らしていることが分かりました。

ペットを飼っているご家庭のなかで一番多くみられた魚類では、金魚を飼育しているお子さんが比較的多いようです。動物と接することで、命の大切さをより良く学ぶことができそうですね。

ペットと暮らし、接することが、コホートキッズを含む人間の発達に、どのような影響があるのでしょうか。今後は、そのようなことについても調べていければと考えています。